

米 People's World
(英 Morning Star より転載)
April 26, 2023

岐路に立つスーダン：代理戦争か革命か？

Sudan at a crossroads: Proxy war or revolution?

<https://www.peoplesworld.org/article/sudan-at-a-crossroads-proxy-war-or-revolution/>

BY AMEENA AL-RASHID

急速支援部隊（以下 RSF）はジャンジャウィードそのもの

4月8日に始まったスーダン軍とRSFとの紛争の本質は、スーダン国民に対する代理戦争である。彼らは大国の支援により富や武器を手に入れている。

それはモハメド・ハムダン・ダグロ将軍（通称：ヘメティ）の率いる急速支援部隊（以下RSF）とスーダン軍内の「国家イスラム戦線」治安委員会の戦争である。後者を率いるのはアブデルファタフ・アブデルラフマン・アル・バーハンである。両者とも、海外の国から支援を受けている。

ヘメティは、スーダン国民向けの演説で、最も洗練された武器を持っていることを公然と自慢した。彼はいう。「安い武器を買っていたわけではない。RSFは最高のものを最高の人から買っているのだ。」

RSFは、2004年にダルフルで大量虐殺を行ったとして国連安保理決議1556号で起訴された民兵組織「ジャンジャウィード」"Janjaweed"と同じ組織だ。

それは2019年6月3日にハルツームの軍本部で行われた座り込みで、もう一つの残虐行為を行った民兵と同じである。しかし、国際社会の記憶は完全に白紙化しているようだ。

RSFは、"ハルツーム・プロセス"に際して、国際社会に復帰する最初の足がかりを得た。それはやがてEUの公認に至る。取説と同じで読んでみてもさっぱりわからないが、ジャンジャウィードを使うということは、トランプよりもっとひどいことをする計画ということだろう。

訳注 EU-アフリカの角移住ルート構想 (EU-Horn of Africa Migration Route Initiative): アフリカ連合委員会 (AUC) と欧州委員会 (EC)との間で2014年

に結ばれた。「不法移民、密入国、人身売買の防止と闘い」を目的とするが、取説と同じで読んでもさっぱりわからない。しかしジャンジャウィードを使うということは、トランプよりもっとひどいことをするつもりということとは容易に察しがつく。

それは有り体に言えば、リビアから地中海を渡り、ヨーロッパに向かう移民を阻止する計画だった。それはヘメティを軍事的に支援し、権力、資金を与えるものだった。

RSFはその資金を使い、犯罪や権利侵害を繰り返した。そして国際社会は皆そのことについて沈黙を守った。

ヘメティの最近の同盟国はロシアだ。彼はモスクワに招待され、プーチン大統領と面会した。その直後、ロシアの準軍事組織であるワグナー・グループが派遣された。そして彼を支援し、民兵を訓練した。

2019年に退陣したスーダンの前大統領オマル・アル・バシルも、RSFの温存に手を貸した。彼は在任中にサウジを支援してイエメン戦争に介入した。そしてRSF部隊をイエメンに送り込んだ。

RSFはそこでも犯罪行為を繰り返し、リビアやエリトリアやエチオピアからの難民に暴力を振るった。

そして今、彼らはスーダンで自国民への略奪とテロを始めているのだ。

スーダンはRSFの包囲下であり、いたるところで人が殺されている

一方のボス、ムスリム同胞団 = 軍事政権のトップであり、治安委員会のトップであるブルハンは、エジプト、UAE、サウジアラビアを足繁く訪れている。

彼は命令を受けている。それはスーダンから資源を盗み、略奪し、スーダンから金や農産物を密輸することだ。

2019年、ブルハン率いる軍事政権が国家権力を掌握した。彼はRSFを使い、民主化デモを暴力的に取り締まった、同時に彼の私兵集団として「イスラム武装集団」を組織した。

2021年10月、アル・バシルに対する民衆蜂起後の「文民移行」の建前はすべて捨て去られた。

ブルハンは暫定政府を解散させ、文民指導者を逮捕し、ヘメティを右腕として自らの政権を確立した。

それは当時のことであり、今、両者は戦争状態にある。

この度の紛争のきっかけはいろいろあるが、なかでも北部の人民抵抗委員会がスーダンとエジプトの間の貿易を停止させたことが注目に値する。人民抵抗委員会の闘いは、多くの資源のエジプトによる略奪を阻止した。それはエジプトに深刻な影響を与え、怒らせた。そして RSF や軍事政権と同盟国との関係を決定的に破壊した。

"この戦争はスーダンを深く傷つけ、その影響が近隣諸国に波及している"

ヘメティは今、アル・ファシャカ地方でエチオピアに立ち向かっている。そこはエチオピアと係争中の土地で、2020年11月にライバルのブルハンが「解放」した地域でもある。

戦火を交えた2つの軍閥は、誰がスーダンの権力を独占し、誰がスーダンの資源を掌握するかをめぐる競争を繰り返している。この全面的な争いは、アル・バシル政権下で軍が30年かけて築き上げた経済・金融力をどちらが引き継ぐかの戦いである。

軍部は依然として大企業や銀行、を支配下においており、スーダンの銀行や機関から略奪した資金を確保している。両派はそれらの資源を独占しようと狙っている。

スーダンでは2019年12月に革命が発生した。文民政府への復帰を願う運動は軍閥の脅威となり、その立場を著しく弱めた。だから彼らは今、あらゆる手段を使って革命を頓挫させるという使命を共有しているのだ。それは、たとえ自分たちの間で権力争いをしていても、革命を許さず暴力支配を維持するという使命だ。

"スーダンは実は大国で豊かだ。金、鉱物、巨大な農業の可能性など"

スーダンの富は国を建設し、スーダンの人々のために繁栄と発展を生み出すことができるのに、この富はこれまでも、そして今も略奪され続けている。スーダンの抵抗委員会は、ロシアのワグナーグループが金を密輸している映像、エジプトのトラックが金を出荷している映像も持っています。

ここ数日発表された停戦は、双方にとって時間稼ぎに過ぎない。両陣営とも、国際社会に約束した停戦を守るつもりはない。

とりわけ RSF は、スーダン軍の一部と考えられているにもかかわらず、組織的な軍隊ではない。メンバーたちは、戦闘初日から、自分の家で略奪や襲撃を繰り返している。たとえ停戦が一部で機能したとしても、それがどこでも尊重されるわけではない。

両者は互いに譲らず、最後まで戦い続ける状況になりつつある。

国民は深刻な被害を受け始めている。何千人もの人々が家を出て、安全な場所を探している。

この紛争は、追放された政権のイスラム戦線からはぐれた制御不能な民兵、兵隊、軍人による暴動であり、3、4回と続くジェノサイドである。

私たちは今、ハルツームやマラウィなど、民間人の近くの軍事基地が殺人鬼の出撃基地となっている状況を目の当たりにしている。まず一刻も早く、軍隊を都市から排除しなければならない。

"スーダンの人々は戦争の終結を求めている。これは戦争の犬どもの争いだ。"

国民は、戦争に反対する同盟の結成、文民政府の回復、軍隊を兵舎に戻すこと、民兵を解散させることを求めている。

しかし、それは始まりに過ぎない。スーダン革命は挫折したままとなっている。それは継続されなければならない。それは漸進的な発展であり、国民が国の資産と富を管理できるようにする道である。

スーダンの活動家たちは、経済の平和的な発展、国民に奉仕する分厚い公共部門の構築を呼びかけている。

しかし、その道には、多国籍企業、金融資本、国の富に対して利害関係のある人たちがいたるところにたちはだかっている。

「国際社会」はどうすればいいのか

国連は良い役割を担っている。しかし包括的な平和に向けて人々を結集するほどの力はない。それは限定的なものに過ぎず、全般的な効果は十分なものとは言えない。

国連が仲介し、2022年12月に文民政治勢力と軍との間で枠組み合意が締結された。しかしそれは、ヘメティと小さな「解放」軍の利益を追求するものでしかなかった。多くの人々や勢力は排除され、革命が求めた重要な要求

は、そこには含まれていなかった。これが、軍事政権がいかなる政府も樹立できなかった理由である。

国連は、すべての人を巻き込むために、スーダンの政治地図を把握する必要がある。その中から、スーダン自身にとって必要な議題を優先しとりあげる。そして革命に貢献したすべての人々による、包括的な合意を築かなければならない。

スーダン共産党はその一翼を形成する。そして党を支持し、急進的な変化を求める無党派の勢力と共同する。この革命は、スーダンの活動家、共産党員、進歩的なグループによって作り上げられた、確固たるスローガンと要求の上に成り立っている。

国際的な連帯勢力は、自国政府にスーダン国民の要求を支持するよう働きかけるべきである。それは国民の権利を守り、国家と国民を守る軍隊を作ることができる、包括的な文民統治を実現することである。

外国勢力は、軍や国内の軍事勢力、民兵部隊への支援をやめるべきである。

この戦争はいずれ終わる。その際には、2つの破壊勢力の運命も尽きるだろう。

スーダンの人々は、もはや他の独裁者や他の国家に寄り添うことはないだろう。自分たちの利益のために国を歪め、人々の権利を踏みにじる人々、同盟関係にはもううんざりしているのだ。

(訳 : SS)

アメーナ・アル・ラシード (Ameena al-Rashid) は、スーダン共産党の活動家、政治評論家。Liberation Journal や英国の Morning Star に寄稿している。

2021年11月02日 [スーダンのクーデターは東アフリカを危険にさらす](#) もご参照ください